

明治国際医療大学誌では、独創的な研究成果を掲載し、学際的なアプローチに基づく新たな知見を提供することを目指しています。また色々な分野からの寄稿者によって作成された論文を掲載する事により、多様な視点からの知識の提供を目的とします。

大学は「教育と研究」の場であり、「真理を探求する」唯一の場であると、広く認識されています。「教育」に関しては、現状全国の大学において「教育 DX」の推進が積極的に実施され、それに伴う IT 機器の発展と機器に対応する教育者の研修等が日進月歩進められています。特に COVID-19 によるパンデミックな閉鎖状況の中で、IT 機器を活用した教育方法の変換が必然的となりました。COVID-19 が 5 類になった現状において、大学全体が以前の教育方針に戻ることなく、より良い教育手段として IT 機器の使用は教育の中で不動の位置を占め、大学は「教育」優先の状況にあります。

しかし「研究：真理の探究」は大学が唯一の場であり、大学のもう一つの大きな柱です。研究分野では、教育分野のように IT 機器の活用は著明ではありませんが、COVID-19 の閉鎖状況前に回復しつつあります。本誌においても冒頭に記した様に、明治国際医療大学の独創的な研究成果と、多様な視点からの知識の提供を全国の大学に発信する事を目的とし、今号から新たに 2 つの項目を新設しました。

1 つは投稿論文の種類に「学術交流」を追加しました。明治国際医療大学として国内・外の学術交流の報告が定期的に掲載されておらず、国際大学としての活動報告を新たに投稿論文の 1 ジャンルとして設けました。今号では、鶴先生の「ポルトガルにおける国際学術交流の実際」の第 1 報を掲載し、次号の 32 号において第 2 報を掲載します。そのほか海外の大学との交流、海外実習の報告など定期的に掲載していく予定です。

もう 1 つの新しい項目は、「大学院修士課程、博士後期課程修了者の論文要旨の掲載と、その明治国際医療大学学術機関リポジトリへの登録」です。本大学においては、毎年 20 名以上の大学院修了者が修士と博士を取得しています。地方の中規模大学（定員 1000 名以下）において毎年これだけの人数の大学院修了者を出している大学は全国でも非常に珍しく、その研究内容も西洋文化から東洋文化にかけて多岐にわたっています。大学院生の研究業績と、その研究を指導して頂いた教員の先生方の業績、そして大学での研究内容を全国の大学に提供することにより、研究の更なる発展と他の研究機関との交流を目的として設けました。

第 42 代米国大統領の Bill Clinton (William Jefferson Clinton) は、エール大学を訪れた時に「大学は、世界で一番心地よい場所です。何故なら大学は真理を追究する場であり、そこには真実しか存在しないからです。真実がなければ、全てのものが見世物に過ぎなくなります。」と言っています。研究は、「真実と道理、証拠と事実」の探求であり、この素晴らしさを提供するのも、本誌の目的であると考えています。

これからも皆様の多くの意見を参考にして、本誌の発展に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今号の制作に当たり査読して頂いた先生方と、編集委員会の委員の先生方また図書館司書の方々に、深くお礼申し上げます。

明治国際医療大学誌編集委員会  
委員長 岡田 成賛

明治国際医療大学誌編集委員会

岡田 成賛, 林 知也, 糸井 マナミ, 智原 栄一, 鶴 浩幸,  
田口 玲奈, 奥田 正作, 木村 隆彦, 千田 いずみ, 小西 奈美

編集事務局

629-0392 京都府南丹市日吉町 明治国際医療大学附属図書館内

E-mail: uni\_libr@meiji-u.ac.jp

---

明治国際医療大学誌 第 31 号 (2024)

編集・発行 明治国際医療大学誌編集委員会

発行日 令和 6 年 9 月 30 日

印刷 株式会社プリントパック

---